

右衛門、下役として同心に安房守組より中田平右衛門、長谷川半兵衛、和田金助、野村彌兵衛、大久保彦兵衛、大久保彦右衛門差出ス、

但出雲守組より出役の名前、同心之方舊記切候て相みへず、○中略

一享保四亥年、新大橋掛直し新規御普請被仰付、此時も町奉行懸りにて、中山出雲守組與力松浦彌次右衛門、山上八大夫、大岡越前守組與力萩野左大夫、福島仁兵衛、奉行下役同心出雲守組青柳儀右衛門、鈴木萩右衛門、吉田清兵衛、越前守組より笹岡善右衛門、町田善助、岡田彌五郎出役せり、此時御老中御懸りには戸田山城守殿也、町奉行兩人、江山城守殿より御沙汰有之しは二月の事也、同年三月十八日、出雲守方内寄合に、右與力共呼出し出役之儀申渡し、同六月八日に新始して、同九月廿五日皆出来也、凡晴天八十二日に而御普請成就せり、此時御入用高合て金六千貳拾七兩、大工は喜兵衛、清兵衛、頭取可出来ず、本棟梁掛らざるよし、明れば享保五年二月六日、町奉行を御城へ召され、戸田山城守殿被仰渡候には、去年中新大橋掛直し御普請之節、出役の者共骨析出精ニ付、早速出来、一段に思召候、依之御褒美被下候段、御達には先例之通り、與力四人へ白銀五枚ヅ、同心六人へ同三枚ヅ、被下候、

〔本所深川橋々書留〕享保四亥年

一本所橋數 三拾四ヶ所内

新大橋 長百八間、幅三間貳尺

〔一話一言〕三或人日記抄 杉田八兵衛なり、伯八郎右衛門養父

一同年享保十三年九月朔日二日、大風雨にて所々破損あり、築地牛込揚場大水出る、橋々落る、兩國橋、

永代橋、新大橋、何れも九月十二日に落候由、近年不覺水之由、人々申候、

〔本所深川橋々書留〕享保十五戌年